
原子力・エネルギーに関する 教育支援事業について

平成18年2月21日

文部科学省研究開発局

○原子力・エネルギーに関する教育支援事業の主な取り組み

①原子力・エネルギーに関する教育支援事業交付金

国民一人一人がエネルギーや原子力について理解を深め、自ら考え、判断する力を身につけるための環境整備を図る観点から、全国の都道府県が学習指導要領の趣旨に沿って主体的に実施するエネルギーや原子力に関する教育に係る取り組みを国として支援するため、原子力・エネルギーに関する教育支援事業交付金制度を運用。

各自治体における事業例 (H18申請予定府県数:28府県)



【ソーラーカーの製作(富山県)】



【実験器具の整備(酸性雨発生説明器(和歌山県))】



【小・中・高等学校教職員研修会(群馬県)】



【学校講演会の開催(岡山県)】



【副読本の制作(茨城県)】

②原子力体験セミナー



【セミナーの様子 電子加速器を利用した実験】

原子力・放射線について、講義、実験・実習、施設見学等を中心に、理科系の専門的な科学的知識の習得を目的としたコースから、資源・エネルギー・環境・防災教育といった総合的な学習の時間等へも役立てることができるような内容のコースまで、小・中・高等学校の教職員等を対象に開催。

(H16参加数:1,493人)

③簡易放射線測定器「はかるくん」の貸出し



【簡易放射線測定器「はかるくん」】

場所や周囲の環境条件により自然放射線の強さが異なることを実際に測定するなど、授業等で活用できるよう小・中・高等学校等に対して、簡易放射線測定器「はかるくん」及び放射線の特性についての実験を簡単に行える実習用キットの貸し出しを実施。

(H16貸出台数:15,447台)

④講師派遣



【左：講師派遣の様子 右：中学生のための放射線教室の様子】

エネルギー、環境、原子力、放射線を巡る諸問題について、情報を提供し、理解を深めていただくことを目的として、中・高等学校等に対し講師を派遣。また、放射線に関する基礎的事項の解説と簡易放射線測定器「はかるくん」による自然放射線測定及び「霧箱」による放射線の飛跡の観察などを通じて、放射線に対する理解を深めるために「中学生のための放射線教室」として中学校に対し講師を派遣。

(H16派遣回数:315回)

⑤原子力・エネルギーについて先生・児童生徒考える教育支援サイト「ニュークパル」



総合的な学習の時間等で実施された授業実践事例や指導計画・指導案の掲載、小・中・高等学校の先生方に国や関係機関が実施している原子力やエネルギーに関する教育支援のための副教材、講師派遣、施設見学、教員セミナーなどの情報、授業で活用できるプレゼンテーションソフト・素材の提供などを行っている教育支援のためのホームページ「ニュークパル」を運営。

(H16アクセス数:26,665件)

○原子力・エネルギー教育に係る新たな支援措置(エネシス)

H18予算案：12.0億円
(H17予算額：13.7億円)



教育現場



学習指導要領

教育委員会



原子力・エネルギーに関する教育支援事業交付金

【H18予算案：4.2億円】

■簡易放射線測定器
「はかるくん」の貸出し等
【H18予算案：2.3億円】



■教育支援サイト「ニュークパル」
【H18予算案：0.7億円】



■原子力体験セミナー
【H18予算案：2.8億円】

■講師派遣・原子力施設見学会
【H18予算案：1.0億円】



●教育支援事業の充実(出前科学教室)

【H18予算案：0.6億円】



○先生方の要望に応じた教育支援事業を活用した授業の提案

【H18予算案：0.4億円】



原子力・エネルギー教育のより一層の充実

